

令和7年度 第3回青少年育成委員会 会議録

- 1 日時 令和8年2月21日（土）午前10時～午前11時45分
- 2 会場 豊田市青少年センター 交流室
- 3 出席者 委員／大村恵（委員長）、斎藤茂美（副委員長）、野畑清敬、宇井一弘、西本昌司、稗田猛  
白川陽一（欠席）  
（敬称略）オブザーバー／近藤啓史、藤田憲彦、杉山基明、藤本聡  
事務局／永坂正和、近藤雅子、荘田元宣、山中浩之、中根史義、山村聡志、松浦友洋、  
水野路子

4 内容 司会により、以下のとおり進行した。

（1）会の成立

委員7名中6名の出席を得て、委員会規則第6条第1項に基づき、委員会の成立を報告した。

（2）主催者あいさつ

杉山副理事長があいさつをした。

これ以降、大村委員長が議事を進行した。

（3）議事

①議事1 青少年育成委員会 前回の会議録について

●事務局より説明。資料：議題1

会議録については、ホームページで公開予定。

公開にあたっては①発言した委員の氏名は記載しない、②会議の内容は要約表記とする、③事務局説明や事業の内容に関係ない発言に関しては記載しない、④会議資料は基本的に掲載とするが、モニタリングに関する資料は掲載しない、⑤個人団体及び施設等、名称が特定されて支障があるものについては、内容によって公表するかを委員と協議して配慮する。

以上の5点に配慮する形で掲載する。この要件を踏まえながら、配布した会議録について、自身の発言内容について、加筆・修正等があったら申し出てほしい。

議事1について、意見・質問は無かった。

②議事2 令和7年度モニタリング事業評価（後期分）について

●青少年部について事務局より説明。

各施設から事業の簡単な説明と報告を行った後、事業評価書の説明を行った。

●青少年センターについて事務局より説明と報告。資料：議題2 P2～9

(委員)

『活動支援事業 日本トップの筋肉 伊吹主税がやってくる!』について、事業評価の説明があった。多くの女性や青少年の参加が見られ、開始 30 分前には満席となった。終盤には立ち見を含め 100 名ほどいたように思う。

運営スタッフは、スケジュールどおり滞りなく進行していた。

プログラムの内容は、学習、憧れ、体験、記憶を配慮した内容であった。

予算については最小限で賄い、出演料は交通費と些少であったと聞いた。

青少年センターは「世界と繋がる場所である」という記憶と記録を充分発揮し「幅広い世代への認知拡大」「青少年センターの有効活用」「質の高い体験機会の提供」がなされた事業であった。

(委員)

利用者から声が挙がって実現した事業であると事務局より説明があったが、フィジークの取組みをしたいという相談があったのか。

(事務局)

昨年、4 階の軽運動室を個人利用していた若者に職員が声がけを行い、自らが取り組んでいるフィジークのイベントをサロンで開催した。その後、若者から再度相談があり、日本のトップクラスである伊吹氏を招いて開催の運びとなった。

(委員)

予算的には無理はなかったのか。

(事務局)

問題なかった。

(委員)

個人で活動している青年の声を広げていく非常に良い取組みであると感じる。是非そのプロセスも利用者に知らせて頂けるとよい。

(委員)

『サークル・グループ文化祭』について事業説明があった。

事前の準備のヒアリングを含め、利用団体の成果発表や PR、地域に青少年の拠点であることを周知して頂く事業としてよい企画であった。

毎年、事務局の努力もあって新しいグループの参加がある一方で当日は、出演者等の関係者の来場者が多く感じる。

職員が裏方となり、運営がスムーズに行えているが、開始と終了のメリハリがないことが気になる。最後の菓子まきは盛り上がっていたが、サロンでは危険性を危惧した。

小ホールのステージは賑わっていたが、多目的ホールは参加者が流れ込む工夫が必要である。

地域への回覧版などで PR していくことも一つの方法ではないかと思う。

(委員)

『サークル・グループ文化祭』について事業説明があった。

利用団体が発表できる貴重な事業である。ステージ企画は非常に盛り上がりを見せ、見ごたえがあった。一方でブース参加が少なかったように感じる。4 階の軽音楽室で実施されたドラムの体験教室は参加が少なく、1 階と 4 階の連携については課題が残る。4 階での取り組みがもう少し

あればよかった。青年スタッフがあらゆる面で頑張っていた。

活動紹介という点ではブース参加グループはもう少し詳しくポスター展示などで活動をPRするような工夫があるといい。

菓子まき後は主催者あいさつや、実行委員会など青年達の声が聞こえる場があるとよかった。

(委員)

運営サイドの人数は足りていたのか。

(事務局)

参加団体の中から受付などを出してもらい、不足したところは青少年センター事業の高校生ボランティアスクールの受講生がコース外活動として参加した。

(委員)

自身も青少年団体や育成団体のような活動に関わっているので協力もできた。ブース出展もできるので声掛けをしてほしい。

(事務局)

是非、お願いしたい。

●野外センターについてはモニタリング評価なし。

●産業文化センターについて事務局より説明と報告。資料：議題2 P10～25

(委員)

『いろいろプラスネタリウム② 上坂監督が語る月、火星、そしてその先へ』について、事業評価の説明があった。

大阪万博での映像や、博物館での「深宇宙展」など関連づけて実施していたことは評価できる。

幅広い年齢層を対象にされていた半面、少し空席が目立っていたことは残念であったが、特異的な分野である為に仕方ない面もある。

スタッフは目立たずスマートに活動しており、参加者は心地よかったであろうと感じた。

司会のトーク力、上坂監督の語り、映像を通して「既に宇宙へ行ってしまった」ような参加者の感想を聞くと、企画が成功したことが窺える。

予算に関しては、少ないのではないかと危惧するが効率的に実施したことはすばらしい。

宇宙の分野はこれからの広がりを見せていく分野であり、豊田市ではトヨタ自動車との関わりも深い。今回のような関連づけした事業を展開することで、更なる来場者が多くなることを期待したい。

(委員)

『いろいろプラスネタリウム② 上坂監督が語る月、火星、そしてその先へ』について、事業評価の説明があった。

宇宙、天文分野では有名な上坂監督を招いた良い事業である。予算についてはやはり少なすぎるように感じる。謝礼が25万の内18万を占めており、他の館と比べても少なく、運営費が厳しいのではないかと感じた。

今回のような事業は、一般に対してもそうだが、職員の研修にもなる。プロ中のプロと企画を行

うことで、専門スタッフの育成や人脈の構築に繋がっていく。

内容は上坂監督と司会の掛け合いの方がよいトークショーになったのではないかと思う。

(委員)

質の高い企画であったと感じているが、参加者の割合で小中学生が少ないことは残念に思う。

何か分析はしているか。

(事務局)

1つはPR不足であり、内容をもう少しうまく伝えることができればよかった。

その他としては、日曜の晴天が影響したこと、開催時間は午後4時であり、足を運ぶのには鈍い時間であったと考察する。

(委員)

学校へはPRしているのか。

(事務局)

科学館全体のちらしの中でPRしており、各学校へ1人ひとりに配布している。

(委員)

豊田市内はもう少し天文ファンが多かったような気がするが。

(委員)

日柄はどうであったか。

(事務局)

11月は行楽シーズンも影響している。

(委員)

分野の狭い企画はSNSで発信することが自身の企画においても効果的であると分析している。

SNSを強化されたいのではないかと思う。

(委員)

アンケートでもSNSで知った方が多い。口コミで広がれば中学生も巻き込むことができる。

(委員)

アンケートでは愛知県外の方が11名見えるが、上坂監督のファンなのか。

(事務局)

そうである。長崎県からの参加者も見受けられた。

(委員)

30代から60代の方が多いのはそういったことか。別の事業では県外は少ない。

このような方を招いた事業展開をどんどん実施した方がいいのか。

(事務局)

プログラムでは、実際の万博の映像を上映したが、その際にその映像をプラネタリウム化する話がでた。アンケートではその映像を見たいという意見が多かったことから検討していきたい。

(委員)

『ものづくりワークショップ(内部講師) 繭ランタンを作って光らせよう』について、事業評価の説明があった。

繭を使用した命の尊さを感じとれる内容で、親子で参加することはコミュニケーションにも役立っている。応募数は実際の12組の3倍ほどあったと伺った。しかし、現状のスペースの問題、

材料の調達、サポート体制を考えると適正であった。

終了後に行われた「点灯式」は産文のイルミネーションと合わせ、自分たちが作った作品を同時に点灯させたことで、参加者の満足度は高かったように感じる。

今回は、繭に関連する職員が携わったことでできた企画と聞いた。職員が専門分野を活かせるような人事配置を願いたい。

(委員)

何故、繭をつかったのか。

(事務局)

産業文化センターはかつて、養蚕工場「加茂蚕糸」の跡地であったことに紐づけした。

(事務局)

豊田市が車産業の前は、養蚕業が中心であった。

(委員)

報告の中で繭関連での繋がりがあってできた企画とあったがどういうことか。

(事務局)

内部講師の職員が以前「くらし発見館」の職員として養蚕のワークショップに携わっていたため、作品制作の前に歴史などについてお話をした。

(事務局)

その職員を中心として材料の調達も行い、外部的にも繋がりができた。

(委員)

『いろいろプラスネタリウム③ ほろよいプラネタリウム』について、事業評価の説明があった。

新しい試みで、十年後の日本においても観測できる皆既日食のテーマは、タイムリーな話題としてよかった。ワインを提供することには賛否あるが、こども向けの事業があるなら大人向けの事業もありと感じる。

飲料を提供する際の時間のロスが課題として見受けられた。初めての試みであったので致し方ないところではある。飲食を伴うことは大変であり、予算の課題もあるが外部に全て（対応も含めて）発注できれば効率的にできたのではないかと感じた。当日は座席形式であったが、立食形式であれば会話が弾んだとも考えられる。いろいろと試していただければと思う。

(委員)

『いろいろプラスネタリウム③ ほろよいプラネタリウム』について、事業評価の説明があった。

本事業は財団の存在意義を感じる企画であった。市直営ではこのような飲食を伴う企画は難しいと感じる。財団が存在しているおかげで柔軟な運営ができてからこそである。

また、財団に専門性のある職員がいるからこそ、外部の専門的な方との繋がりができる。行政職のような配置転換のない専門性が担保できることも大切なことである。今回の企画でとても強く感じた。今後もトライ＆エラーで豊田市らしい名物企画を展開してほしい。

(委員)

先ほどのモニタリング（いろいろプラスネタリウム①）ではチラシの効果が薄いのではという

発言があったが、こちらでは 20 パーセント以上がチラシや広報となっている。SNS や HP は 10 パーセント以下である。これは面白い。大人向け企画ではチラシ等の効果がある。また体験館へ来ているリピーターも多い。来年も実施して頂きたい企画である。

(委員)

飲食を伴う企画は初めてであったが、ガイドライン等はあるか。

(事務局)

まずプラネタリウム内では清掃面を鑑みて、飲食は禁止とさせていただいている。

(事務局)

1 年かけて企画を立案してきた中で、プラネタリウム内での飲食も検討した。しかし、プラネタリウムでは通常でも画面酔いする利用者がある。普段の投映前にも注意喚起をしておき、今回はお酒が入ることで画面酔いが更に増すことを懸念して、多目的ホールに移動しての飲食とした。

(委員)

他の施設でもこのようなチャレンジングな企画を立案してほしい。

### ③議事 3 令和 8 年度青少年部事業計画（案）について

- 事務局より、青少年部全体の基本方針の説明を行った。
- 各施設が資料に基づき説明を行った。

#### 《青少年センター事業についての質問と意見》

(委員)

サロンカフェの話があったが、どの事業に該当するのか。

(事務局)

自立支援、若者応援事業に該当する。

(委員)

そうすると延べ 300 人は少ないのではないか。

(事務局)

予算の段階での人数となっており、実際はもう少し多い。サロンカフェは隔週を想定している。あくまでもサロンを設けることが目的ではなく、若者の居場所づくりと新たな出会いづくりが目的である。

(委員)

青少年育成アドバイザーとしてサロンを年 2 回利用している。その際、高校生ボランティアスクール登録の受講生を派遣していただいているがそこも入っているのか。

(事務局)

入っていない。運営スタッフは大学生を想定している。

(委員)

高校生に聞くと、小さい子と接する貴重な機会があっただけ楽しかったという意見がある。

大学生になっても機会があるといい。

(委員)

基本方針の中で多文化共生、共創社会について、それをテーマにしている事業はあるか。

(事務局)

各事業の中で取り組める事業があれば取り入れていく姿勢でいる。1年かけて進化させる年としたい。事業名として現れるのは令和9年度以降となる。

(委員)

来年度は準備期間としてもTIA(国際交流協会)などへ集ってきた人たちが、青少年センターの事業に関わっていくような仕掛けを考えて頂きたい。また、障害をもった青年の参加についてもソフト事業での取組みをお願いしたい。

### 《総合野外センター事業についての質問と意見》

(委員)

前期のモニタリングで野外センターにいった際、交通の不便さを感じた。事業の際は送迎などを考えてほしい。あと、事業の参加年齢の幅を広げて頂いたことは良いことである。大人の企画があれば、その大人が子どもを連れてくるような取組みにも繋がる。

(事務局)

事業ではバスの送迎を行っている。

(委員)

先日、山の子学級のモニタリングをさせていただいた。継続して参加できることは子どもの集団もできる。活動の展開も可能性がでてくる。大学生のスタッフが、小学校4年生から参加しており、12年もの間、関係性をもっている。そういう方を増やして頂きたい。

乳幼児の事業については、かなりニーズがあると認識している。音楽会や絵本というよりも、野外活動をやっていくことでもいいのかと思う。また、同じような活動を行っている市民との連携も考えて頂きたい。

### 《産業文化センター事業についての質問と意見》

(委員)

「二十歳のつどい」の催しの際、外国にルーツのある方に対して晴着の貸出しや着付けを行っている自治体があり、今年東京の豊島区が行っていた。TIA(国際交流協会)と共催していくとあったが、交流することで日本の伝統文化を伝え親しんでいく機会の提供にもなる。そのような試みは行ってきたのか。

(事務局)

喜楽亭の茶会をTIA(国際交流協会)に訪れる外国ルーツのある方が日本茶を楽しんで貰えるよう、時期を含め開催した。その際に別に着付け体験を同時に開催した例はある。

(委員)

機会があればまた検討して頂きたい。豊島区が話題になったのは、外国にルーツのある方以外にも、生活困窮者の青年にも支援をした。「二十歳のつどい」をその様な交流の場にして頂けるよう検討してほしい。

(委員)

意見も無いようなので、今後のスケジュールについて事務局よりお願いしたい。

(事務局)

今後のスケジュールについて、豊田市からの受託事業については3月議会にて承認の後、確定する運びである。また、豊田市文化振興財団の理事会が3月19日に開催される。そこでこの事業計画案が全て承認されて確定となる。

従って、来年度のモニタリング事業については、来年度の第1回目にご希望を伺うことになる。

④議事4 令和8年度第1回青少年育成委員会の日程について

- 調整の結果「令和8年5月17日（日）午前10時」に決定した。

⑤議事5 施設からの諸連絡

（オブザーバー）

前回の会議で、産業文化センターが延命化工事で改修する旨の発言をしたが、後日確認したら延命化の候補には挙がっているが、現状何年度に実施するのかは言えないという事実が明らかになったので訂正させて頂きたい。

以上